

チームで取り組む医療安全 倉敷中央病院における医療安全研修の現状  
公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院  
HQM推進室 患者安全リスク対策グループ 医療安全管理者  
塩津 昭子

(概要)

当院は、岡山県の南西部にあり、病床数 1166 床、医師 501 人、看護師 1339 名を含む総職員数 3226 人(2019 年 4 月 1 日現在)である。2016 年 3 月に、近畿・中国四国地方の病院で初の J C I の認証を取得した。J C I とは、患者の安全と医療の質向上が組織的かつ継続的に取り組まれているかを国際規格で審査・認定する機関である。J C I の基準の一つである、国際患者安全目標 ( I P S G ) は、当院の医療安全研修の基盤となっている。

事故防止のためには、職員の安全意識を高揚させる必要がある。また、事故防止のためには、全職員が高い安全意識をもって日常の業務に臨む必要がある。しかし、一方、職員は様々な個人的問題等を抱えながら職務を遂行しており、特に複雑系システムである医療の現場においては、常に流動的であるがうえに、不安定な心理状態にあると考えられる。そのため、たとえ一人であっても、安全意識を高く維持し続けることは困難な状況にある。個人に働きかけるとき、安全意識の低減の法則というものがある。第 1 法則「安全意識は、事故が発生しない限り単調に減少する」第 2 法則「安全意識を上昇させるのは、事故の体験のみである」第 3 法則の 1 「安全意識の上昇度は、事故の重大度に比例する」第 3 法則の 2 「安全意識の上昇度は、事故と自分への近接度に比例する」と言われているように、たとえ集合研修であっても、個人の安全意識を上昇させることを目的に、医療安全研修を企画・運営をしている。そのため、各医療安全研修においては、できるだけ当院で発生した事故、もしくは、過去にあった重大事故を元にすること、研修会ではロールプレイ、ワークショップ形式にすることで、体験値を上げる・事故と自分への近接度を上げることができると考えている。

当院における医療安全研修の現状について、2018 年度に実施した研修 (延べ 27 日、75 時間、受講者数 1900 人超) を、年間スケジュールとともに、事例を通して報告する。

当院は、「理想的な治療本位の病院」を目指して、基本理念の「患者本位の医療」「全人医療」「高度先進医療」に取り組んでおり、より安全かつ効果的な患者ケアを提供できるよう、今後も全病院関係者が一丸となり、院内組織文化を J C I の求める国際標準の視点で改善活動を続けられるよう、研修管理を行っていく。